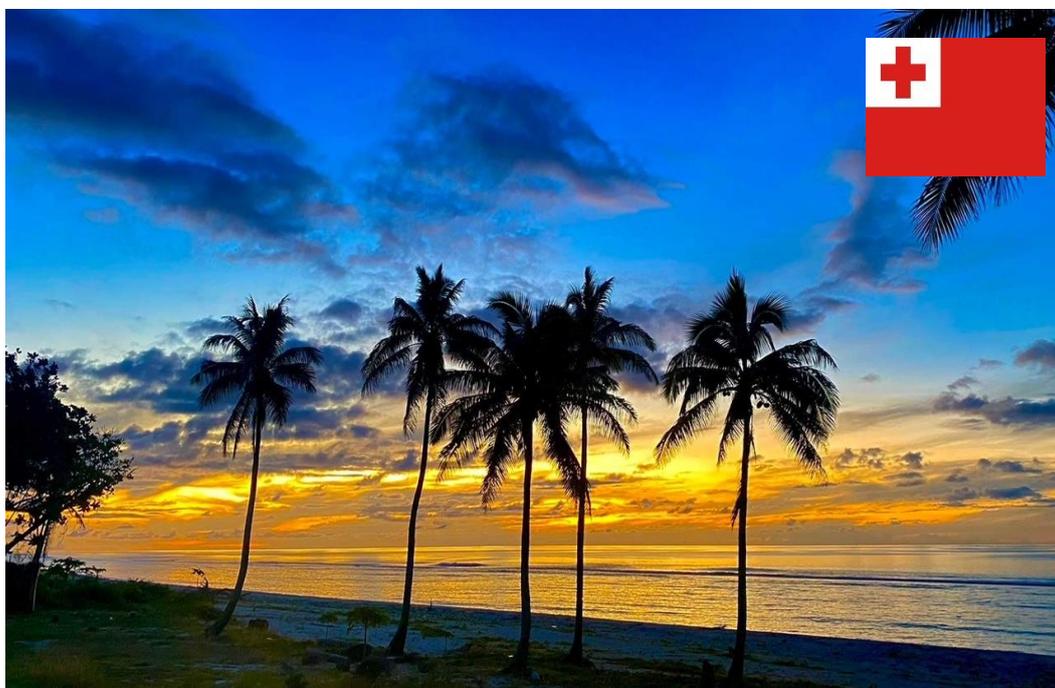


「安全の手引き」

＜トンガで安全に暮らすために＞



令和6年2月1日
在トンガ日本国大使館

< 目 次 >

I	はじめに	3
II	防犯の手引き	4
1	防犯の基本的な心構え	4
2	最近の犯罪発生状況	4
3	防犯のための具体的注意事項	5
III	交通事情と事故対策	9
IV	テロ・誘拐等について	10
V	その他	10
VI	緊急連絡先	10
VII	緊急事態対処マニュアル	11
1	自然災害	11
2	緊急事態に備えて	16
3	緊急時の行動	17
VIII	おわりに	19

I はじめに

この手引きは、トンガに在住されている方々や長期滞在される方々に、より安全にお過ごし頂くための参考資料として作成したものです。

トンガは南太平洋島嶼国の中でも比較的治安の良い国と言われていますが、首都ヌクアロファ及び周辺地域をはじめ、住居侵入及び窃盗等の一般犯罪は日々発生しており、日本以上に注意が必要です。犯罪の要因として、若年層の失業者や中途退学者の増加、都市部への人口流入及び欧米文化の流入等が考えられており、また近年は、違法薬物の犯罪が問題視されております。

当地での邦人数自体は少数ではありますが、在留邦人の方々及び旅行者が巻き込まれる一般犯罪も発生しており、言動や身の周りの環境に注意を払い、隙を作らないことが大切です。

トンガは環太平洋造山帯に位置し、地震多発地域となっており、過去には津波災害が発生しています。また、当地は毎年11月～4月頃までサイクロン・シーズンと呼ばれており、2018年、2020年には大型サイクロンの影響で沿岸部を含め多くの風水害をもたらしました。さらに2022年1月にはフンガトンガ・フンガハアパイ火山が大噴火し津波の発生、火山灰が降り注ぎ、インフラが断絶する等甚大な被害が発生しました。

トンガにおいて、これらの犯罪や自然災害から自身や家族を守るには、当地における治安情勢や犯罪の傾向などを把握し、必要な安全対策を積極的に講じること、また、常日頃から自然災害情報を入手し不測の事態に備えておくことが大切です。

この手引きをご参考にして頂き、防犯対策等にお役立て頂ければ幸いです。

Ⅱ 防犯の手引き

1. 防犯の基本的な心構え

海外においては、色々な面で日本国内とは環境が異なりますので、「自分の身は自分で守る」といった心構えを強く持って安全対策に努めることが重要です。普段から正確な情報を収集し、対策を立て、被害を未然に防止するとともに、万が一犯罪等に巻き込まれてしまった場合には、冷静に対処するよう心掛けて下さい。更に、油断や一瞬の気の緩みによって犯罪の被害にあうことも多く、定期的に犯罪に対する意識を高める必要があります。この手引きでは、実際に邦人の方が被害に遭われた事例をもとに、その対策、注意事項及び対処要領等を記載していますのでご参考にして下さい。

2. 最近の犯罪発生状況

(1) 首都ヌクアロファ(Nuku'alofa)及び周辺地域を中心に、近年の欧米文化流入等に刺激された若年層による暴行、傷害、窃盗及び外国人を狙った住居侵入事件等の一般犯罪をはじめ、銃器を用いた凶悪犯罪や違法薬物(主に覚醒剤、大麻)に関する事件も複数報告されています。トンガ警察によると、犯罪件数は減少傾向にあるものの、依然として一般犯罪や重大犯罪(薬物犯罪、銃犯罪)は発生しており、引き続きの警戒が必要です。

日本人が遭遇する被害の多くは、暴行、窃盗、置き引き、住居侵入等です。

(2) 近年、麻薬の不法栽培・所持及び密輸出・輸入の犯罪が増加しており、トンガ警察の重要課題の一つとされています。警察当局は2018年4月に特別タスクフォースを立ち上げ、自警団等との連携の下取り締まりを強化しており、目下一定の成果を上げている模様です。過去、路上やクラブ等で麻薬らしき物売りつけた後、捜査協力の奨励金目当てに警察に密告するような事件も起きていますので、街中で見知らぬものからこのような話を受けても絶対に相手にしないなど十分ご注意ください。

(3) また、若者らによる転売目的とみられるスリ、住居侵入による盗難被害が発生しております。鍵の施錠を確実に、また屋外から見える位置に貴重品を置かない等の注意が必要です。

(4) 更に当地では、2000年初頭から中国人移民が急増し、一部のトンガ人はビジネスで成功している中国人移民に反感を抱いているとも言われており、中国人が経営する商店への強盗及び窃盗事件等が発生しています。2021年1月には、トンガタブ島にて中国人が経営する商店4カ所への強盗事件が発生しました(同一犯による犯行、その後逮捕)。その他、過去には2006年11月に発生した暴動で、中国人が経営する多くの商店に対して、

トンガ人が破壊や焼き討ちを行う事件が発生しています。中国人と間違えられやすい日本人が白昼暴行を受ける事件も過去に発生していますので、この点にも注意が必要です。旅行者、長期滞在者ともに、隙を見せないこと、日頃からラジオ、新聞、地元の人々、ホテル従業員、旅行代理店、大使館等から情報収集することをお勧めします。

3. 防犯のための具体的注意事項（主な被害例と防犯対策）

（１）犯罪多発地域

- ソプ（Sopu）地区、トフォア（Tofoa）地区、マウファンガ（Maufanga）地区、アナナ（Anana）地区及びウムシ（Umusi）地区などの外国人が数多く居住する住宅街
- 夜間の海岸沿い、バーやナイトクラブ

※犯罪のほとんどは首都ヌクアロファ及び周辺地域で発生している。

※これらの地域を含め、街灯がない場所もあるため、夜間の外出、特に女性の一人歩

（２）住居侵入

<事例>

●在留邦人が午後帰宅したところ、玄関ドアの鍵の様子がいつもと異なることに気づいた。ドアを開けると、居間・食堂及び各寝室にある棚等は全て物色されており、現状がわからない程散らかっている状況であった。侵入経路に関し、警察によると、犯人は住居裏の有刺鉄線を飛び越えて敷地内に侵入し、住居の裏口のドアをこじ開けて屋内に侵入したのではないかとのこと。犯人は冷蔵庫内も物色し、シャワーを浴びた形跡もあった。

●自宅裏庭に面した窓際に置いていた腕時計複数が無くなっていることに気づいた。窓を確認すると、窓枠部分の下部にバールの様な工具でこじ開けたような跡が見られたことから外側から窓をこじ開け犯行に及んだとみられる。

<主な防犯対策>

（イ）住居を探す際は、まず安全な地域及び物件を選ぶ。

（ロ）むやみに知らない人を家に入れない、高価なもの（高価に見えるもの）を目立つところに置かない。

（ハ）契約する前に出入り口のドアの強弱、施錠設備、窓の鉄製格子の設置及びセキュリティライトの設置状況等を確認し、不備なところは入居前に補強及び修理してもらう。

（ニ）隣人と良好な関係を築く

(ホ) 使用人及び警備員の雇用、警報装置の設置及び番犬の配備に努める。

(ヘ) 主寝室は在宅中に賊が侵入した場合の避難室となるので、扉・鍵及び錠は強固なものにし、室内には電話・サイレン・防犯ベル及び緊急連絡先リスト等を常備する。また、携帯電話があれば就寝時は寝室内に置いておく。

(ト) 家を長期間留守にする際には、貴重品を放置しない。また、セキュリティーライトの常時点灯を行い、家主に管理をお願いする。必要に応じ使用人を在宅させる、信用のおける警備会社に依頼し警備員を常駐させることも一つの対策である。

(チ) 賊が侵入しているところを発見したら、警察に電話若しくはサイレンを鳴らし、大声で近所に助けを求める。ただし、賊はナイフ等を隠し持ち複数で侵入してくることが多いので、賊と直面してしまったら無闇に抵抗するようなことは避け、身の安全の確保を第一に考えて対応する。

(テ) 帰宅時に何者かが侵入したような形跡を発見したら、その場では単独で住居に入らず、警察、近隣住民、大家等を伴ってから住居に入る（単独で賊とはち合わせると極めて危険）。

(3) 暴行未遂

<事例>

●在留邦人が日中自宅から徒歩で買い物に出かけたところ、たむろしている若年層3人組に絡まれ、胸ぐらを掴まれた。その場をすぐに離れたため、怪我はなかったが、その後も数回同じ3人組に絡まれることがあった。

●在留邦人が午前中青空マーケットにて駐車を試みたところ、駐車場係の案内で一方通行を走行中、前方に走行を妨げる杭のようなものを発見した。そのため、前方に走行できなくなり、複数の後続車もあったため、回避するために別の出口に置いてあった交通整理用のカラーコーンを一時的に移動させようとしたところ、近くにいたトンガ人店員が説明も聞かずに突然殴りかかろうとした。恐怖のあまりその場を逃げ去った。

<主な防犯対策>

(イ) 怪しい人に話しかけられても相手にしない。無視してその場を離れる。また、相手から挑発的な言動があっても反応しない。

(ロ) 中国人に間違えられて嫌がらせを受ける可能性もあるため、日本人であることを早めに伝える。

(ハ) 頻繁に通行する場所であれば、警察に連絡し周辺地域のパトロールを強化してもらう。

(4) 車上荒らし

＜事例＞

在留邦人が夕方ブナロード沿いに路上駐車したところ、車から離れている間に窓ガラスが割られ、車内を物色された。車内に貴重品は置いていなかったこともあり、金銭的な被害はなかった。

＜主な防犯対策＞

- (イ) 路上駐車を行う際は、人目につきにくい場所は避ける。
- (ロ) 車外から見える場所に物を置かない。面倒でもトランク等の見えにくい場所に置く。

(5) 強盗・窃盗

＜事例＞

- ヌクアロファ市内で女性がATMで現金を下ろし、リュックを背負いながら歩いていたところ、突然10代と見られる若いトンガ人男性が同女性のリュックを引っ張り、強奪しようとした。
- ヌクアロファ市内で邦人女性がバスから降車した際、2人組のトンガ人に財布をすられた。
- バイニ地区（ヌクアロファ市郊外）を自転車で走行中、一度自転車を降りてスマートフォンアプリで地図を確認。その間に道路の反対側から笑顔で近づいてきた10代の男性にスマートフォンをひったくられた。

＜主な防犯対策＞

- (イ) 昼夜を問わず、人通りの少ない地域や危険と思われる地域には立ち入らない。特に夜間の一人歩きは禁物である。また、人通りの少ない道路やビーチなどの一人歩きも危険である。
- (ロ) 不審な人物に狙われていないか、常に周囲を警戒する。
- (ハ) 努めて複数で行動し、何かあった場合にはすぐに助けを呼べるようにしておく。
- (ニ) 夜間に外出する際は、徒歩及び自転車での移動を避け、自家用車又は信用できるタクシー等を利用する。
- (ホ) 万一、不審な人物による尾行があったり、怪しい集団がたむろしている場所に遭遇してしまったりしたら、すかさず商店等に入るか迂回する。また、酔っぱらいにからまれたりした場合には、相手を怒らせることなく穏やかに対応しつつ足早にその場を離れる。
- (ヘ) 喧嘩等が発生しやすいバーやクラブ等では、周囲の状況に注意し異変を感じた

らすぐにその場を離れる。

(6) 置き引き

<事例>

●海沿いのテーブルに携帯電話を置き、夕日の写真を撮るため目を離したところ、携帯電話とケースに入れていたクレジットカードがなくなっていた。

<主な防犯対策>

(イ) 持ち歩くバッグ等は努めて1つにし、常にたすき掛け等にするかイスに縛着しておく(たすき掛けは置き引きに対しては有効ですが、ひったくりなど強引に奪おうとする犯罪の場合にはケガをするおそれがあるので注意が必要です)。

(ロ) 貴重品はホテルに預け、海岸やプールのイス等に置きっ放しにしない。

(7) 違法薬物(薬物)犯罪

近年、違法薬物(薬物)の不法生産、所持、販売等の犯罪が増加しつつあり、治安当局は取り締まりを強化しています。違反者は外国人といえども例外的な取扱いはなく、厳しい処罰(懲役刑)を受けています。路上やクラブ等で観光客に違法薬物らしき物を売りつけた後、捜査協力の奨励金目当てに警察に密告するようなケースも起きています。

<主な防犯対策>

面識のない人物から安易に物を受け取らない。密売人らしき者が近づいてきても一切無視する。

(8) 遊泳、シュノーケリング及びダイビング中の事故

当地では、珊瑚礁や岩礁(リーフ)に囲まれたビーチが点在しており、リーフの内側は比較波が穏やかな箇所もありますが、足がつく程度の深さの場所にいたにも関わらず、沖に戻ろうとする水の強い流れ(離岸流)によってリーフの外側(外洋)に押し流される事例も発生しています。波にのまれて外洋に流されてしまうと、急激に深くなり、強い潮の流れもあるため、自力で戻ることは困難ですので、海に入る時は十分にご留意頂きますようお願いいたします。また、沖合の珊瑚礁は波に対する壁となるため白波が立ちます。その付近では、波にさらわれたり巻き込まれたりして珊瑚礁に体を打ち付ける危険性もありますので、遊泳やシュノーケリングをする際は、その付近に近づかないよう注意してください。

また、北部のババウ島の沿海では、サメに襲われ死亡する事故が発生していますので、遊泳場所については、事前に十分情報を収集した上で選定してください。また、現地の人が行かないところへは近づかないようにすることが大切です。更に、遊泳中

は、自動車や持ち物等は目の届く場所に置くよう心がけ、なるべく一人での行動は避けてください。また、ホテルの管理人等に帰宅時刻を伝えておくのも一案です。

<主な安全対策>

(イ) 遊泳及びシュノーケリングは環礁の内側で行う。

(注) シュノーケリングは使用方法を誤ると水難事故につながるため、初心者は使用方法を確認してから使う。

(ロ) ホテルや専門店等で情報を入手し、危険な地域でのダイビングやサーフィン等は避けるとともに、初心者は必ず上級者やインストラクターとともに海へ入る。

4. 交通事情と事故対策

近年、輸入車の増加に伴う交通量の増加とともに交通事故も増えています。交通事故に遭っても、被害者に対する事故の補償額は極めて低い上、任意保険に加入している車両も比較的少ないと思われます。また、交通事故の裁判には長期間を要するため、運転中に交通事故の被害に遭った場合には、相手側に過失責任があってもやむなく自分の車両の任意保険で修理費等を負担するケースが多くあります。交通標識は少し増えてきましたが、当地での道路事情及び運転マナーは劣悪です。自動車を運転される場合には（自分が悪くなくても、いわゆる「もらい事故」に合う可能性も含めて）細心の注意が必要であり、歩行者が事故に巻き込まれることも多いので、次の点に注意して下さい。

<主な安全対策>

(1) 速度制限の標識に従い安全に気をつけて運転をする。なお、警察によると標識がない場所の制限時速は時速50kmとのこと。また、一部郊外の道路には減速帯が設けられてはいるが非常にわかりにくいため、特に注意して運転する必要がある。

(2) 交差点では、優先道路を走行している車両が優先となり、ロータリー（環状交差点でラウンドアバウトと呼ばれている）では、ロータリー内を走行している車両が優先となる。

(3) 方向指示器が故障している自動車が多いため、方向指示器を出さずに左折や右折する車が多いので、交差点を通過する際には曲がってくるかもしれないということを常に意識して運転する。また、方向指示器を出さずに急に左折や右折、割込み等をする運転マナーの悪いドライバーも多いので、車間距離は十分にとり方向指示器も早めに点灯させる。特にタクシーは運転マナーが悪いので注意する。

なお、当地では交差点で左折をする場合、右折してくる対向車が優先であるので注意を要する。

(4) 舗装道路でも穴の空いている所が多く、また、放し飼いの犬、牛や豚等の家畜が急に横切ることがあるため、スピードを出し過ぎない。

(5) 夜間は、街の中心部と空港への道路を除いて照明がない場所が多いため、運転は努めて避けるか十分徐行する。

(6) 横断歩道はほとんどないため、歩行者が頻繁に道路を横断するので注意する。

(7) 歩行者が交通事故に巻き込まれることも多いため、歩行時は右側若しくは歩道を通行する。また、交差点やロータリー通過時には、車両の進行方向と自分の進行方向並びに左右の状況確認を行うよう心がける。

(8) バスやタクシーを利用する場合には、整備不良車や飲酒のドライバーを避けるとともに、運転手に対し乗車前に行き先と料金の確認を行う。また、夜間の一人乗車は危険なので避ける。

5. テロ・誘拐等

現在のところ、トンガでは国際テロ組織等の具体的脅威は確認されていませんが、I S I L等のイスラム過激派組織等によるテロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人及び日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識し、誘拐・脅迫及びテロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情勢の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切に安全対策を講じるよう心がけてください。

6. その他

(1) 野犬・飼い犬対策

トンガでは街中・郊外問わず飼い犬も含めて路上には多くの犬や豚が彷徨しています。当地においては狂犬病の危険性はないと言われていますが（ただし、破傷風の危険性はあり）、凶暴な犬も多いので、徒歩や自転車で移動する際は犬に襲われないように注意してください。なお、飼い犬であってもエサを与えられていない犬やお腹の大きな犬が凶暴化することがあるので特に気をつける必要があります。

(2) 冠水

まとまった雨が降ると一部の道路が冠水することがあります。また、特にサイクロン時において、冠水した場所や水たまりに切断された電線が接触することにより、感電死する事故も発生しています。くれぐれもご注意ください。

7. 緊急連絡先

- ・緊急 911 ・警察 922 ・バイオラ病院 7400403
 - ・救急 933 ・移民局 7401881 ・観光省 7401701
 - ・消防 999 (ヌクアロファ) 927 (ハハ) 928 (ヒヒ)
 - ・在トンガ日本国大使館 22221 緊急携帯電話：8731788
- 住所：Level5、NRBT Building、Salote Road、Fasi-moe-Afi、Nuku'alofa

Ⅲ 緊急事態対処マニュアル

テロ、クーデター、暴動、サイクロン、大地震及び津波等の緊急事態が発生した場合には、落ち着いて行動し、安全を確保することが大切です。本マニュアルでは、過去の自然災害、人的災害発生状況、普段から準備しておくべき事及び事態発生時の対処要領を記載していますのでご参照下さい。

1. 自然災害

(1) 地震、津波、火山噴火

当地は環太平洋造山帯に位置しており、トンガ近海においても度々地震が観測され津波が発生する可能性もあります。

2022年1月に発生したフンガトンガ・フンガハアパイ火山の大噴火では、離島を含めた国内各地で津波が発生し、火山灰の影響で国内インフラの停止、噴火による海底インターネットケーブルが断線するなど甚大な被害をもたらしました。

現在、トンガ全国に警報システムが導入されており、津波の危険性がある場合には、警報にて周知されますので、警報を聞いた場合には高台や避難場所へ移動してください。

ア 対策

- ① 避難先を意識しておく（下記避難地図）
- ② 職場等の最新の緊急連絡先を常に保管しておく
- ③ 非常用物資を備蓄しておく
- ④ 長期間不在にする場合は緊急時対策を講じておく
- ⑤ 地震、噴火が発生したら津波を意識する

イ 大使館による情報発信と安否確認

- ① 自然災害情報を入手した場合、在留邦人の皆様へ情報提供します（在留届に記載のメールアドレス宛等）。

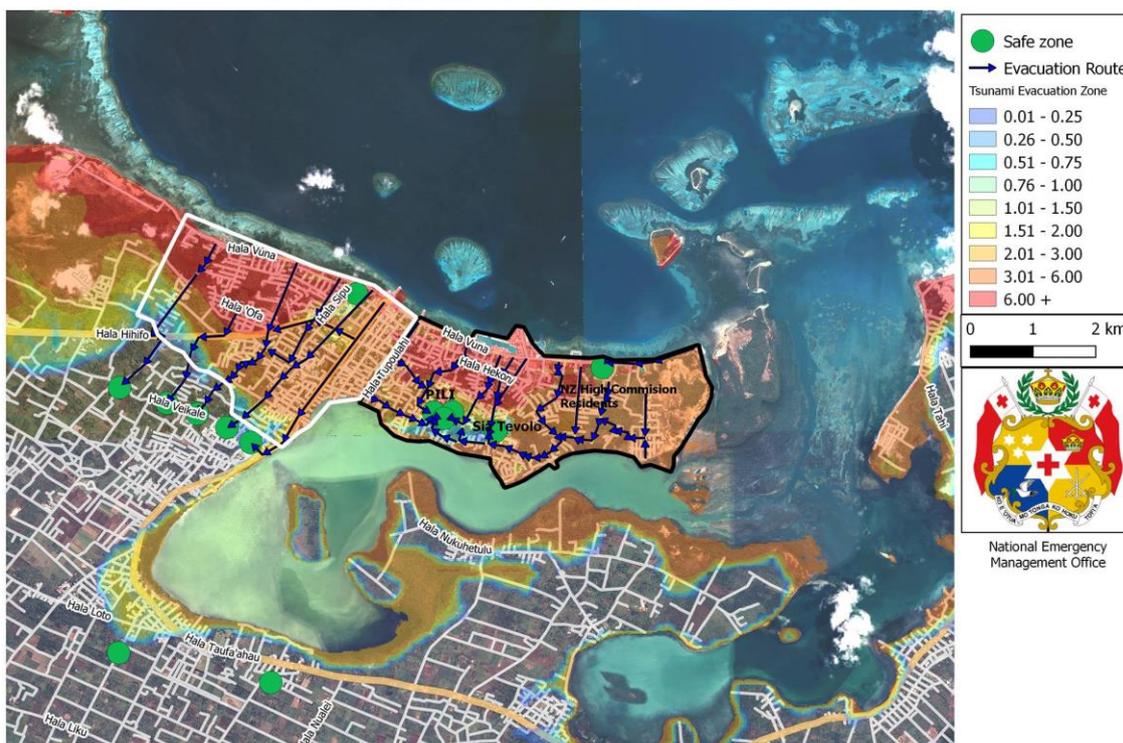
- ② 災害発生時には、在留届の情報に基づき安否確認を行います。
 ※安否確認のためにも、3ヶ月以上滞在される方は在留届の提出をお願いします。

地震及び津波情報収集サイト

米地質調査所 (USGS) <http://earthquake.usgs.gov/>

US 津波警報システム <https://www.tsunami.gov/>

TSUNAMI EVACUATION MAP - Nuku'alofa



津波避難地図：

<https://www.facebook.com/NEMOTONGA/photos/a.310361086015231/496330127418325/?type=3>

(2) サイクロン

トンガは例年11月から4月頃まで雨季にあたり、この時期はサイクロンや大雨が発生しやすい「サイクロン・シーズン」といわれております。

2018年2月に大型のサイクロン・ジータ（トンガ付近通過時カテゴリー4）、2020年4月には大型のサイクロン・ハロルド（トンガ付近通過時カテゴリー4）がトンガに襲来し、家屋、建物及び木々の倒壊、水、電気等インフラの断絶、高潮等甚大な風水害をもたらしました。

サイクロンが上陸したり、近くを通過する場合には、風雨が極めて激しくなり、海岸付近では高波にさらわれたりする危険性もありますので、海の近くを避けるととも

に必要な応じて安全な場所に退避する必要があります。日頃よりサイクロン発生を含めた気象情報の入手に努めて頂くことが大切です。以下にサイクロンの基礎知識及び対策を記載しますのでご参照ください。

ア サイクロンについての基礎知識

トンガ気象局によると、トンガでは熱帯低気圧が最も活発化する時期は2月と言われており、熱帯低気圧はTropical depression→Cycloneの順で発達し、風速が時速63km以上になると、サイクロンと呼ばれるようになります。サイクロンの勢力は以下の5段階に分けられており、数字が大きいほど勢力が増します。

また、一般的に、エルニーニョ現象が見られる年は、南太平洋において熱帯低気圧が発生しやすいと言われています。

規 模	風速（単位：時速 km/h、秒速 m/s）	瞬間風速
カテゴリー 1	63～87km/h（約 18～25m/s）	125km/h 以下
カテゴリー 2	88～117km/h（約 25～33m/s）	125km/h～169km/h
カテゴリー 3	118～158km/h（約 33～44m/s）	170km/h～224km/h
カテゴリー 4	159～200km/h（約 45～56m/s）	225km/h～279km/h
カテゴリー 5	200km/h 以上（約 56m/s 以上）	280km/h 以上

参考1 風の強さと吹き方（※「気象庁 HP、風の強さと吹き方」より引用）

リンク先：https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/kazehyo.html

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	おおよそ の時速	速さの目安	人への影響
やや強い風	10以上 15未満	~50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。
強い風	15以上 20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。
非常に強い風	20以上 25未満	~90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていないと 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。
	25以上 30未満	~110km		
猛烈な風	30以上 35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。
	35以上 40未満	~140km		
	40以上	140km~		

参考2 トンガ気象局が使う警報（一例）

Gale Alert	24～48時間以内に風速約17～25メートルの風が吹く恐れがある場合に発出される注意報
Storm Alert	24～48時間以内に風速約25～33メートルの暴風が吹く恐れがある場合発出される注意報
Hurricane Alert	24～48時間以内に風速約34メートル以上の暴風が吹く恐れがある場合発出される注意報

Gale warning	24時間以内に風速約17～25メートルの風が吹く恐れがある場合に発出される警報
Storm warning	24時間以内に風速約25～33メートルの暴風が吹く恐れがある場合発出される警報
Hurricane warning	24時間以内に風速約34メートル以上の暴風が吹く恐れがある場合発出される警報

イ サイクロンへの対策

●サイクロンが近づいてきたら

- (ア) 沈着冷静な行動を心がけてください。
- (イ) 緊急備蓄品の備えの確認をしてください。(以下3(3)参照)
- (ウ) ラジオ、テレビ、インターネット等から、情報入手に努めてください。
- (エ) バスタブや使用していない入れ物を洗浄し、洗濯等の用途のために水道水をためておくようにしてください。また、外に置いてある植木鉢やゴミ箱など、暴風によって飛ばされる可能性のある物は、固定するか屋内に入れてください。
- (オ) 避難の指示が出された場合には、直ちに指示に従ってください。
- (カ) 身体の安全を第一に考えた行動を心がけてください。群衆心理に影響されないように注意してください。
- (キ) 家族、友人、職場などの緊急連絡網を確認してください。

●サイクロン通過中及び通過後の注意点

- (ア) 電気器具の接続を外し、屋内で、窓やガラスなど飛散物がない建物の最も強い部分を避難先とすることをおすすめします。
- (イ) 家の近くや行き先付近で電線が切断されていないかどうかを確認してください。感電死等の危険も考えられるので、水たまり、鉄製のフェンス等に注意を払ってください。
- (ウ) 水たまりは非常に深くなっている可能性があるため、極力避けて通るよう気を付けてください。
- (エ) 水質低下が起こる可能性がありますので、飲料水はミネラルウォーターをおすすめします。傷口からばい菌が入る可能性がありますので、水たまり、泥が混じった水等は避けるようお願いいたします。
- (オ) 物取りなど、一般治安が悪化する可能性がありますので、戸締まりを確実に行う、不要な外出は避ける等気をつけてください。

サイクロン等の気象情報は以下のサイトをご参照下さい。

トンガ気象局：<http://www.met.gov.to/>

フィジー気象局：<http://www.met.gov.fj/>

※南太平洋のサイクロン予報等が掲載されています。

Windy：<https://www.windy.com/>

2. 緊急事態に備えて

(1) 大使館への届け出

(ア) 当地に3ヶ月以上滞在する予定の方は、在トンガ日本国大使館に「在留届」を提出して下さい。

(イ) 日本に帰国される場合や、長期に亘り当地を離れる予定のある方は、「帰国届」を提出して下さい。

(ウ) 住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先及び帯同者等に変更があった場合は、「在留届記載事項変更届」を提出頂き、常に最新の情報にして下さい。

(エ) 上述の「在留届」「帰国届」「在留届記載事項変更届」は、下記のアドレスより、インターネットでも届出可能です。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

(オ) また、「在留届」の提出義務のない3ヶ月未満の短期滞在の方について、滞在予定を登録して頂けるシステム「外務省海外旅行登録（たびレジ）」がございますので、是非ご活用下さい。なお、本登録を行うことで、緊急時の情報やお役立ち情報の提供を受けることができます。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

(2) 連絡手段の確保・整備

緊急事態が発生した場合には、当館より安否確認や情報提供のためにお届けの連絡先に伝達致しますので、連絡手段は常に整備し確保しておいて下さい。

(3) 緊急事態用物資等の整備

緊急事態が発生した場合には、食料、飲料水、医薬品、燃料等の入手が困難となることが予想されますので、普段より非常用物資を備蓄しておくよう心がけて下さい。備えの一例は以下のとおりです。なお、備蓄物資の中には長期保存に適さないものもありますので、随時使用期限を確認しておいて下さい。

(ア) 非常用食料（7～10日分程度）

(イ) 飲料水（7～10日分程度）、飲料水用容器

(ウ) 医薬品

(エ) 燃料、懐中電灯、ろうそく、マッチ、乾電池、ケロシンランプ

(オ) 携帯型ラジオ

(カ) 衣類、寝具（毛布等）

(キ) 食器、炊飯道具

- (ク) 携帯電話（予備バッテリーを含む）
- (ケ) 旅券（有効期限が6ヶ月以上残っているか）
- (コ) 入国査証（必要に応じて）
- (タ) 海外旅行保険
- (チ) カード類（クレジットカードを含む）
- (ツ) 現金（航空券購入費用等、トンガパアング及び主要国通貨）

3. 緊急時の行動

(1) 安全確保

緊急事態が発生した場合は、各自安全確保に努めると共に、可能な限り情報収集を行って下さい。

(2) 避難方法

(ア) 自宅待機：特定区域で緊急事態が発生し、自宅周辺に直ちに影響が及ぼされる可能性が低い場合は、自宅に待機して連絡手段を確保しつつ情報収集に努める。

(イ) 一時退避：軽度の自然災害や火事等で居住地周辺に危険が迫り、自宅内に残留すると被害が及ぶ可能性が高くなった場合は、知人宅やホテル等に避難し、日本大使館に連絡先を伝えるとともに情報収集に努める。

(ウ) 国外退避：戦争、連続テロ、クーデター等のトンガ全土に渡る緊急事態が発生し、状況の悪化が予想される場合は、住居の戸締まり等を厳重に実施し、商用機等で国外退避する。

(エ) 緊急退避：戦争、連続テロ及びクーデター等のトンガ全土に渡る緊急事態が発生し、自力での国外退路が断たれた場合は、大使館との連絡手段を確保したうえで、指示された集結場所、日時等に従い、チャーター機や自衛隊機等によって国外退避する。

(3) 大使館への連絡

緊急事態が発生した場合は、大使館では在留邦人の皆様の安否確認を行います。しかしながら、緊急事態発生の場合には、その多くの場合、電話回線が不通になるという事態に直面します。大使館から皆様への連絡に努めますが、可能な限り皆様から大使館に連絡して頂くと同時に、日本などのご家族に対して無事を伝えていただければと存じます。

(4) 大使館からの連絡

緊急事態が発生した場合は、大使館よりEメールや電話にて安否確認や情報提供を行います。

(5) 外務省（本邦）からの連絡

緊急事態が発生し、事態が長期化した場合には、海外安全ホームページにて情報提

供致します。

(6) 個人による国外退避

事態の推移を勘案して、外務省より「退避勧告」が発出された場合は、可能な限り各人で国外退避するようお願い致します。

(7) 一時集結場所

事態が急速に悪化し、個人による国外退避が不可能な状態となった場合は、情勢をみつつ安全な場所を指定します（基本的には、日本大使館事務所としますが、状況次第で変更もあり得ます）。

(8) 一時集結場所までの移動要領

ア 可能な限りグループを作り、自力で移動して下さい。

イ 自力での移動が不安な場合は、治安当局に対し安全確保を依頼して下さい。状況によっては大使館が支援します。

ウ チャーター機等で国外に退避する事態となった場合は、一時集結場所から国際空港までの移動は大使館が支援します。

エ 一時集結場所（候補）

日本大使館事務所（住所：Level 5、National Reserve Bank of Tonga Building、Salote Road、Fasi moe Afi、Nuku' alofa）

オ 航空会社リスト

●ニュージーランド航空

TEL:23192 FAX:23447

住所：Air New Zealand House、Hala Vuna Kolofo' ou、Nuku' alofa

●フィジー航空

TEL:24022

住所：Tonga Post Bldg、Taufa' ahau Rd、Nuku' alofa

カ 外交団リスト

●オーストラリア高等弁務官事務所

TEL:23244 FAX:23243

住所：Salote Road、Fasi moe afi、Nuku' alofa

●ニュージーランド高等弁務官事務所

TEL:23122 FAX:23487

住所：Taufa' ahau Road、Nuku' alofa

●英国高等弁務官事務所

TEL:23122 （内線 117）

住所：Taufa' ahau Road、Nuku' alofa

●中国大使館

TEL:24554 FAX:24595

住所 : Vuna Road、 Fasi-moe-afi、 Nuku'alofa

キ トンガ語

(Ⅰ) 私の名前は・・・です。

Ko hoku hingoa ko…… (コホクヒンゴアコ……)

(Ⅱ) 警察を呼んで下さい。

Kataki、 tā ki he polisi. (カキターキヘポリシ)

(Ⅲ) 日本大使館に電話をして下さい。

Kataki、 tā ki he 'ofisi 'o 'Amipaasitōa Siapani. (カキターキヘオフィシオアンパシアシアパニ)

(Ⅳ) 助けて下さい。

Kataki、 tokoni mai. (カキトコニマイ)

IV おわりに

海外においては、「自分の身は自分で守る」の心構えで常に警戒心を持ち、万が一の場合に備えて普段から周到に準備しておくことが重要です。また、不幸にして犯罪や非常事態に遭遇してしまったら、努めて冷静に対応し、被害を最小限にとどめるようにすることも必要です。大使館と致しましても、皆様が少しでも安全にお過ごしになられますようご支援をさせていただきますので、ご質問等がございましたら下記連絡先宛てにお気軽にご連絡下さい。

在トンガ日本国大使館

住所 : Level 5、 National Reserve Bank of Tonga Building、 Salote Road、 Fasi-moe-Afi、 Nuku'alofa

電話 : 22221、 FAX : 27025

閉館時緊急 (携帯) : 8731788、 8731790

領事班専用 E-mail : ryouji.tonga@nu.mofa.go.jp